

ジョンソン・エンド・ジョンソン（J&J）が医療従事者の技術の習熟に力を注いでいる。トレーニング施設「東京サイエンスセンター」（川崎市川崎区）が8月に設立3周年を迎え、世界各国で展開するトレーニング施設や教育プログラムの一つに位置付けられた。トレーニングの意義や今後の取り組みを日色保社長に聞いた。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社長 日色保氏

トレーニング施設3周年



製品開発に日本の声反映

くまで医師の技術を発揮するためのツールで、あり、医師の技術の習熟度で副作用の有無だ。や、手術後の経過が良いなど成果が違つ。革新的な医療機器を理解し、技術を習熟した上で使ってもらわなければ

ば最善の医療は提供できない。プロフェッショナルな教育は大事だ。海外からも来訪者が多いようですね。「東南アジアなどから当施設への来訪者も多い。日本の医師は方

「インベージョン」は生命線
「世界の医療施設、も貢献していく」

「医療機器は細かい改良、改善の積み重ねだ。当施設で医療従事者の声を集めやすく、世界の製品開発のプロセスに、日本のニーズをぜひ盛り込みたい。」

「世界各所で展開するトレーニング施設や教育プログラムの総称である「ジョンソン・エンド・ジョンソン」

記者の目

医療機器は元来、売り切り型ビジネスではない。医療従事者の技術の習熟があつて初めて、機器本来の性能を発揮することができる。特に近年、教育の重要性が高まっているのは、体への負担が少ない低侵襲治療が目され、技術レベルも高度化しているためだ。技術習熟が低侵襲治療の普及の力を握る。

（編集委員・村上毅）